

人吉高等学校五木分校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、五木村の豊かな自然環境の中、小規模校の特長を最大限に生かして、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>そのため、生徒の多様な進路希望を叶える個別最適化した学びを充実するとともに、一人一人の個性と自主性を尊重し、地域と連携した多様な教育活動を目指します。</p> <p>今後は、体験活動や探究活動等を通して、生徒が自己実現に向かう心を育み、実践力や自己管理能力など幅広いキャリア教育の充実を図ります。また、ICTを積極的に活用し、分校と本校を結ぶ遠隔授業の実施や地元の小中学校や関係機関との連携を深め、地域に根差した特色ある探究的な学びを展開します。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣と学習習慣の確立を通して自己管理能力を育成し、自己実現に向かう心を育成する。 2 ICTを活用した教育活動の進化と深化による、主体的・対話的で深い学びを充実させる。 3 進路指導の充実を図る。 4 多様な生徒への対応に努める。 5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。 6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの充実。 ・ 分校ニュースの発行。 ・ 「地域とともにある学校」の実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを週2回以上更新し、アクセス数が一日平均90を超す。 ・ 生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 ・ 学校行事等を地域へ発信。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して、ホームページで学校の様子を更新し、アクセス数は1日平均123件であった。 ・ 毎月、分校ニュースを関係機関に届け、情報発信を行った。職員で役割を分担することで、スムーズに作成することができた。
		ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・ 地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年3回以上目標)。また地域と連携をはかり新たなボランティア活動を模索する。 ・ 春と秋の交通安全週間にあわせて交通安全週間「タッチ運動」を実施。 ・ 毎月月初めにあいさつ運動を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村内清掃ボランティア活動を年4回計画し、これまでに2回実施した(6月は雨天中止)。考査最終日に設定しており、昨年以上に時間の確保が難しく、小学校の除草作業は実施できなかった。新たなボランティアのあり方を検討していくことが必要である。 ・ タッチ運動は全生徒が参加することが

						できた。 ・あいさつ運動は、計画通り毎月月初めに実施できた。
	五木秀麗会との連携強化	・秀麗会、保護者懇談会等を通じた連携。 ・保護者の協力を得ながら運動会等の各種行事の成功。	・秀麗会会長との密な連絡。 ・日頃から担任と保護者の密な連絡・相談等を通し、良好な協力関係の構築。 ・Google classroomを活用し積極的な配信。	B	・秀麗会と学校の連携により保護者の学校行事への関りが活性化し、協力体制が向上した。 ・クラスルームを活用し、保護者に分校ニュースを配信、日頃の学校での様子を伝えた。	
地域に密着した教育活動の充実	地元保育園・五木東小学校・五木中学校との合同事業の充実	・第11回保小中高合同大運動会の円滑な運営と成功。 ・小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実。	・地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。合同運動会アンケートの分析。本年度は五木中学校が担当校。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。	B	・第11回目となる合同運動会を保小中と連携して開催することができた。 ・防災教育をはじめ救急法講習会や薬物乱用防止教室など中高の担当者が連携し生徒にわかりやすいよう工夫し、実施することができた。	
	地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	・中学校への魅力発信の取組の充実。 ・令和6年度入学者数の増加を目指す。	・体験入学及び学校紹介DVDの内容の充実とマスコミ等を活用したPR。 ・在校生の状況に関する情報共有を通じた本校の丁寧な対応のPR。 ・分校ニュースをカラー印刷で増刷。	A	・体験入学は昨年と比較すると参加者が3倍ほどに増加し、個別の学校見学もあった。 ・様々な学校行事とともに、他校との交流授業等の情報を新聞社に提供し記事に取り上げられた。 ・学校紹介DVDを管内中学校に配布した。	
	五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	・分校独自の教育活動の展開。 ・五木村の教育活動への参画。 ・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 ・月初めにあいさつ運動の実施。	・県内の分校3校が連携した教育活動の実施。 ・五木村学校運営協議会、五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議への参加。 ・五木村で行われるあいさつ運動、交通安全運動、駅伝大会等への生徒会を中心とした積極的な参加。 ・中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。	A	・県内3校の分校が連携し、オンラインと益城町に集い対面でのグループワークを実施することができた。 ・五木村秋祭りではブースを設置し、学習活動を地域に伝えることができた。 ・林業教室など地域の産業に目を向けた教育活動ができた。 ・五木村の各種会議に参加することができた。	

	業務改善 働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保 ・職員の多忙化解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の整備。 ・職員の生産性の向上。 ・文書管理、データ管理の効率化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理、データ管理に関する職員研修の実施。 ・校務のデジタルシフトの推進 ・衛生推進会議の開催。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書、データの管理について効率化につながるICT活用を今後もより実践していく必要がある。 ・時間外勤務の削減を進めるための業務分担の見直し等を実施したが、今後も継続した見直しが必要だと考えられる。
	教育課程	新教育課程の実施と評価方法の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実施と評価方法の検証。 ・社会に開かれた教育課程の編成・実施と、カリキュラムマネジメントにおける教科横断的授業の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の完成年度（R06）に向けた評価方法の検証を行い、改善案を提示することで、職員間の共通理解を図る。 ・進路指導と連携した、生徒の就職や進学等、幅広い進路選択に対応できる教育及び職業教育の指導計画の推進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の検証について、各教科にその都度改善案を提示したが、改善の余地は依然としてあり、今後も継続的に注視し、相互に確認する必要がある。 ・総探や各種講演等の指導計画を進路と連携して作成することができた。
学力向上	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	<p>生徒間の向上心の高揚を図り、以下のような昇級を目指す。</p> <p>1年・・・7段階昇級 2年・・・6段階昇級 3年・・・5段階昇級</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を3段階の習熟度別グループに分け、TTによる振り返り学習の実施。 ・1級以上合格者に対してICT端末機器を活用した個別指導の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、TTによるきめ細やかな指導により、3段階のCレベル該当者が全てBレベル以上へ昇級することができた。 ・ICT端末機器を活用した個別指導を実施することができた。
		家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の課題未定出者0。 ・考査前の学習時間（1日平均）を一年生は1時間30分、二年生は2時間、三年生は2時間30分を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の連絡ホワイトボードを利用した教科担当と担任との連携の深化、及び生徒の自己管理能力の育成。 ・基礎学力向上を目指した課題の作成。 ・考査前学習会を有効に使った学習時間の確保。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に教科連絡担当者として自覚を持たせ、ホワイトボードを活用して自己管理能力の育成につなげることができた。 ・授業時、週末、長期休暇を通じた課題を課した。 ・考査前学習会を有効に利用し、学習時間を確保することができた。
	授業の充実	「達成感のある授業」の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の有効活用を行い、教員の授業の質を高める。 ・生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を利用したKI20の実践と、公開授業及び研究授業による授業力の向上。 ・各定期考査前学習会の実施。 ・観点別評価の実施に関連した目標の設定と目標達成の手立ての指導。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を利用し、資料の提示やレポートの作成などを行った。KI20の実践と公開授業及び研究授業を通じて授業力向上を図った。 ・定期考査前学習会を通じ、学習面でサポートができた。 ・観点別評価の実施について、目標を設定し、授業の充実を図った。

		授業時間の確保	学校行事の精選。	・行事の内容と期間の見直し。	A	・各部署と連携して適当な行事の内容と期間を設定できた。 ・8月のオープンスクールの内容を生徒主体の運営にしたことで、参加者だけでなく在校生にとっても学校生活を見直す良い機会になった。
		研究授業の実施と授業改善	・研究授業の実施。 ・「学びの基礎診断」を活用した授業改善。	・研究授業後の合評会の充実。 ・「学びの基礎診断」のデータをもとに各教科における分析を行い、生徒理解研修の際にその結果を職員間で共有し、授業改善に役立てる。	B	・「地理総合」で研究授業を実施し、合評会を行った。 ・「学びの基礎診断」のデータを校内で共有し、授業改善等に役立てることができた。
キャリア教育	キャリア教育の充実	キャリアガイダンスの充実	・3年間を見通したキャリア教育計画の再構築。 ・外部講師による進路学習を実施。 ・ICTを活用した進路学習の実施。	・進路指導部を中心に計画を作成。 ・進学、就職に関する講話や、社会生活に向けた講話を通して、進路について考える機会を設ける。 ・ICTを活用し、情報収集能力を高め、進路希望を早期に設定する。	A	・計画通りに実施することができた。 ・外部講師や、担任指導の下、LHRや総探の時間でICTを活用しながら、進路について考えさせることができた。 ・講座によっては、教科の学習活動に絡めた実施等について検討が必要である。
		就労観の育成	・インターンシップの実施。	・インターンシップを通して、コミュニケーション能力の大切さや、時間を守ることの大切さを学ぶ。	A	・台風の影響が心配されたが、日程を変更しながら無事全員実施できた。実施後、生徒の進路決定への意識が向上した。
		「総合的な探究の時間」における系統的な探究学習の充実	・協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。	・1学期は協働して農作物を育てる活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・2学期以降は探究学習を行い、自ら設定したテーマで調べ学習を行い、まとめた内容を発表する。	A	・従来の活動に加え、分校同盟、東大先端研との連携授業という新しい取り組みを行った。 ・人吉球磨地区県立学校実践発表会や文化祭で、探究活動の成果を発表することができた。
	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	・生徒一人一人の希望に応じた進路目標の決定及び、進路目標達成100%。	・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた個別指導や面接指導を行う。 ・関係機関と連携して、個別指導の充実を図る。	A	・公務員希望者は、本校の公務員課外に参加した。 ・進学希望者を対象に、個別指導及び夏休みと冬休みに課外授業を実施した。また、本校と連携して模擬試験を行った。 ・1、2年生は、進路ガイダンスへの参加や職業興味検査の実施など進路への意識づけができた。

生徒指導

<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で生活態度を向上させる態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の記録」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。 ・呼びかけをすることによる整理整頓の習慣化。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で生活の記録をデジタル化しているが、記入の習慣化ができていない生徒もおり、根気強く指導していく必要がある。 ・家庭での基本的な生活習慣を育ませ、さらに自立心を養わせる必要がある。面談にもっと活用するなど、記入した内容のフィードバックの方法も考えていく必要がある。 ・整理整頓が苦手な生徒もいるため、継続的に個別に呼びかけを徹底する必要がある。
<p>規範意識の高揚</p>	<p>規範意識の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事や学級活動等での集団での行動や月例会集会講話を通して、規律ある行動ができる集団の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して規範意識の向上とマナー、モラルの育成。自由とわがままを混同することなく人吉高校生としての校則を考える機会を毎年もち、良い学校生活と卒業後を見据え、本校と連携して校則を策定。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で学校全体として指導することで規範意識の喚起と改善が図られた。 ・生徒総会で校則(制服)について議論するとともに、今後も本校と連携した校則の見直しに取り組む必要がある。
<p>家庭との連携</p>	<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、トラブル等を未然に防止する態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期いじめアンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等による全職員の生徒の情報共有によりトラブルの未然回避。 ・保護者への啓発を行う場の設定と安心メールの有効活用。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の観察・アンケートの実施で早期の対応と事後のフィードバックを行うことができています。トラブル等につながる因子も見られるほか、悩みを抱える生徒も少なくないため、日頃から密に連携を図る必要がある。
<p>生徒の主体的活動の充実</p>	<p>主体的な生徒会活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の生徒会活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例会集会の生徒会による運営の充実を図る。定期的に委員会を実施し、生徒会の一員としての活動機会を充実させる。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感を持って企画運営の係の仕事に取り組む姿が数多く見られた。特に今年は文化祭が行われ、各々の役割で積極的に取り組んでいる様子が見られた。一方で各種委員会が活性化されておらず、生徒会が、連絡機関になっている場面もある。

		放課後の時間を活用した学校生活の充実	・部活動への積極的な参加や自らの課題と向き合う学習への取り組み。	・生徒に積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して、新たな目標を持たせる。また、自らの課題の理解と自己管理能力の育成を図る。	B	・全員パソコン部に入部しており、部活動加入率は100%である。各部活動の実態に応じて練習や各種大会コンクールに参加できた。 ・下校時間を通年で18時30分に見直し、部活動の活性化を期待したが、変化はなかった。今後五木分校にとっての部活動のあり方を継続的に検討する必要がある。
人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	・各学期1回以上、職員研修(生徒理解、特別支援等)の実施。 ・毎週の運営委員会での生徒の状況報告と実態把握。	・外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 ・生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解し指導に生かす。	B	・毎学期生徒理解研修を実施し、生徒情報の共有や課題の検討を行うことができた。夏休みには、SCによる職員研修を実施し、生徒への指導に繋げることができた。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	・3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 ・各行事を通して、生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる力を育成。	・学年ごとにテーマを設定し、わかりやすい授業実践。 ・学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立てて、全職員で指導にあたる。	B	・水俣病に関する講演会、人権子ども集会の視聴を実施し、充実したLHR活動ができた。LHRだけでなく、普段の学校生活においても話題にして、人権意識をさらに高める必要があると感じる。 ・運動会や文化祭など職員と生徒が一体となって活動することができた。
	命を大切にすることを育む指導	取組をとった生命の尊厳並びに他者の価値観を尊重する自尊感情の育成	・各学期「自他の価値を尊重する意欲や態度」を育む授業やLHRの実施。 ・月例集会講話等で思いやりの心や強い心の醸成。 ・ボランティア活動の推進。	・各教科科目の授業で、「命を大切にすることを育む」意欲や態度を育む授業を行う。 ・LHR、総合的な探究の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話を行う。 ・ボランティア活動による自己有用感の深化。	B	・授業や行事での協働活動を通して、自分と他者の命や存在を大切にし、思いやりのある発言や態度について考え、生徒自身が自分たちの行動を振り返る機会を持つことができた。 ・校内外のボランティア活動に積極的に参加していた。

いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ発生0を目指す。 ・いじめにつながらない学校全体の土壌づくり。 ・職員間における生徒の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導と個別面談を行い、いじめの未然防止。 ・月例集会における生活態度等についての注意喚起。 ・生徒情報を職員間で共有し、小さな変化を見逃さず早期発見、早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくり。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任および養護教諭を中心に相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、悩みや困り感に対し迅速に対応し、いじめの未然防止を図ることができた。 ・いじめ認知件数は0（ゼロ）であった。 ・相手に不快感を与え兼ねない言動も見られるため、さらに意識を高めていく必要がある。
		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知と日頃の生徒間の行動観察と情報共有。 ・年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 ・いじめ防止基本方針の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 ・健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を把握した上で適宜対処。 ・いじめ防止に関する職員研修の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による健康観察や養護教諭による「いきいき相談」等を通じて生徒の変化の早期発見に努め全職員で対応できた。 ・外部専門家（SC/SSW）を交えたいじめ問題対策委員会や生徒理解研修、日々の情報交換で職員がいじめに対する察知力や危機意識の向上に努めた。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会をベースにした、地域と一体となった連携体制の構築	統合型コミュニティスクールによる地域や関連機関との連携の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、地元小中学校や保護者、地域住民代表と連携し、計画的な協議会の開催。 ・五木村学校運営協議会への参画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五木分校の教育活動の説明、主な行事の視察と承認。 ・五木分校への地域貢献活動のニーズの把握。 ・五木東小学校、五木中学校の運営への協力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に学校運営協議会を開催した。 ・道の駅や茅葺き民家など五木村の観光施設での清掃ボランティア活動など、活動場所の見直しや改善を図ることができた。 ・五木東小学校と連携した活動が実施できておらず、連携の仕方について検討が必要と考える。
		防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災年間計画の作成および防災教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災意識を高める取組みと中学校との合同防災訓練（風水及び土砂）の実施。 ・各部所において、防災の視点での行事の計画。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育は、中高連携で行った。 ・学校安全計画を積極的に活用し、行事の計画を行った。

職員研修	職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事の根絶 ・人権意識といじめに対する感性の向上 ・ICT活用 ・授業改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事0に向けた規範意識の高揚。 ・人権意識の向上、規範意識の高揚。 ・ICTを活用した授業改革。 ・ICT指導力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な職員研修と職員朝会での機会を捉えた注意喚起。 ・言語環境を整え、人権意識の高い職場環境への醸成。 ・公開授業や研究授業に向けた研修等の実施と研究会等への積極的な参加。 ・授業におけるICTの日常的活用。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や朝会で不祥事防止や交通安全の遵守、情報管理について注意喚起を行った。 ・日ごろから教育活動全体を通して人権を尊重した指導を行うことができた。 ・県教育センターから講師を招聘し、人吉高校定時制と合同で研修を行った。 ・ICTを積極的に活用し、他校と連携した交流学习や専門機関と連携した学習などが実践でき、教育活動の幅が広がった。
------	----------	--	---	---	---

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートは、全体的に評価が高いなかで、特に、保護者の意識が高いので、五木分校の教育が保護者に評価されていると感じた。 ・五木分校は小規模校で人数が少なく、それぞれの進路保障、大きな学校にはない個人のニーズに合った教育が魅力である。今後も五木分校ならではの魅力を高める取組をしてほしい。 ・人吉球磨地区県立学校実践発表会で五木ならではの学びである森林教室について、生徒たちは堂々として素晴らしい発表をしていた。中学生に伝わり、魅力発信の効果があったのではないかと思う。 ・生徒はどのような点で入学してよかったという満足度を評価しているのか、分析をお願いしたい。 ・小規模校では、1対1の関係がほとんどで、性格上もあるかもしれないが集団の中で自分の意見が言えないこともあるため、コミュニケーション能力を身につけて欲しい。 <p>(2) 学力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの家庭学習や生活態度の部分だが、中学校と同じような傾向が表れている。メディアコントロールがなかなか出来ていないのが中学校の課題で、生活が不規則になっている状況がある。高校ではどのような対応がなされているか教えてほしい。 ・学習面で、模試や課外など本校との連携は素晴らしい。今後は、部活動や生徒会活動などでの連携も検討してほしい。 <p>(3) キャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元公務員として就職する生徒がおり、大変期待している。 ・人吉球磨教育実践発表会のように、生徒たちには、ぜひ外で発表する機会を与えてほしい。 ・地域の主産業を学ぶ森林教室を実施していただいている。今後、ドローン体験も入れ、興味がある生徒は資格取得を目指していくのもいいのではないか。 ・地域をテーマにした東京大学先端科学技術研究センターと連携した探究活動をされており、地域連携が深まっている。 <p>(4) 生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも落ち着いた態度で生活している様子が見られる。 <p>(5) 人権教育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から隣接する中学生に、温かく接してくれて感謝している。 ・肯定感や有用感については、日本の風土である「奥ゆかしさ」なのか、もっと自分を評価してもいいのではないかと思う。 ・保護者の視点で見ると日々の生活の中で、小さな自己肯定感を感じていると思う。 <p>(6) 地域連携（コミュニティスクールなど）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五木村の産業・文化について学んでおり、地域連携は深まってきている。せっかく中学校と高校は隣接しているので、中高が連携した学びの機会を設けてもらいたい。 ・職員も五木の魅力を感じ、五木の事を理解して地域と密着した教育活動をしていただきたい。 ・地域住民と児童・生徒と関わりがなくなっている。運動会は保小中高の合同で行っているが、地域の方も参加できるようなプログラムを入れた運動会にできないか。 ・公民館分館長をしており、地域の方も巻き込んだ学校運営の在り方を模索している。学校にどれだけ人を集められるかという魅力づくりを我々が手伝っていききたい。

5 総合評価

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、地域と連携し、小規模校の特長を最大限に生かした、個に応じた指導を充実させ、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成することができた。

本年度の重点目標として、「一人一人が輝く分校生」を教育スローガンに掲げ、自己管理能力の育成、ICTを活用した教育活動の深化、多様な生徒への対応、地域に根ざした特色ある取組の推進を行ってきた。学校運営協議会の皆様からはこれまでの取組を評価するとともに、地域の人材を積極的に活用し、地域の特色を生かした取組の充実を図ることで、学校の魅力向上を期待する激励のお言葉をいただいた。

(1) 学校経営について

- ・全体的に高評価であるが、なかでも学校行事など様々な場面で保護者と連携しながら教育活動を行うことができ、保護者の評価が高くなっている。さらに、地域だけでなく専門機関や他校などとも連携した教育活動を実践しており、小規模校ながら多くの人と関わりながら教育活動を行うことができ、生徒のコミュニケーション能力の育成にも繋がっている。
- ・個別指導の充実と本校での模試受験や課外への参加などを行うことで、生徒の多様な進路希望に合わせた細やかな指導を行うことができた。

(2) 学力向上について

- ・基礎学力の定着を目指した学校設定科目「ステップアップ」では、TTによるきめ細やかな指導により、3段階のCレベル該当者が全てBレベル以上へ昇級することができた。
- ・ICT端末機器や放課後を活用した個別指導を実施することで、学習意欲が向上するとともに家庭学習習慣にも変化が見られた。継続的に学習中心の生活を促すことで、規則正しい生活習慣の定着を図っていききたい。

(3) キャリア教育について

- ・総合的な探究の時間では従来の活動に加え、県内の分校との連携授業や東京大学先端科学技術研究センターと連携した地域理解の活動など新しい取組を行っている。各機関との連携により、専門的知見が活かせ、学びの幅が広がった。さらに、人吉球磨地区県立学校教育実践発表会で探究活動の成果を発表したことが、学校の教育活動と魅力の発信にも繋がった。
- ・多様な進路希望（大学進学から就職まで）に対応する指導体制を人吉高校全日制とも連携して構築することができた。

(4) 生徒指導について

- ・日々の学校生活での声掛けだけでなく、全校集会で学校全体として指導することで規範意識の喚起と改善が図られた。様々な活動において、各々の役割を積極的に果たしているが、生徒会や各種委員会の活性化が課題であり、引き続き工夫が必要だと考えている。

(5) 人権教育の推進について

- ・毎学期、生徒情報の共有や課題の検討を行うとともに、スクールカウンセラーによる職員研修を実施し、全職員で生徒理解を深め、指導に繋げることができた。
- ・普段の学校生活において人権意識を高める指導を行っており、授業や行事での協働活動を通して、自分と他者の命や存在を大切にし、思いやりのある発言や態度について考え、生徒自身が自分たちの行動を振り返る機会を持つことができた。

(6) いじめの防止等について

- ・悩みを抱える生徒も少なくないため、日々の観察・アンケートの実施でトラブル等の早期の対応と事後のフィードバックを行っている。学校全体で相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、生徒の悩みや困り感に対し迅速に対応し、いじめの未然防止を図ることができた。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・地域の方々には御協力いただき、地域の主産業に加え、歴史や文化を学ぶ地域理解活動を実践できた。さらに地域のまつりに参加し、学習活動を発信するとともに地域の方々との交流を深めることができた。また、保護者の学校への参画意識も高く、文化祭や長距離走大会では準備から多くの協力を得ることができた。今後も地域や保護者と連携して、教育活動のより一層の充実を目指したい。

6 次年度への課題・改善方法

【課題】学習習慣の確立

【改善方策】日頃から学習中心の生活を意識させることで、生徒の意識改革を図るとともに、家庭と連携しながら基本的な生活習慣を確立させていく。

【課題】地域の特色を生かした教育活動の充実

【改善方策】地域の各機関と連携し、地域の人材や特色を生かした地域理解を深める体験活動を充実させるとともに、専門機関と連携し先端の知見を活かした探究活動を行い創造的な視野を広げる。

【課題】生徒の対人スキルの向上

【改善方策】様々な教育活動の中で、他校生や地域、また専門機関等と連携することで、多くの人と関わる機会を設け、状況に応じた対応を意識することや、その対処法などについても指導を行う。

